錦城高校新聞

題字 井口 文章

再刊 第２６６号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2018

みんなでつくる
錦城高校新聞

1面：熱意溢れる 教育実習生たち現る！
予算会議、生徒総会開かれる
2面：シルク・ドゥ・ソレイユに参加する
錦城35回生にインタビュー

卒業生、母校で教壇に！

今年は６人が教育実習へ

5月28日(月)から6月15日(金)までの3週間、6人の大学生が錦城で教育実習を行う。先生方に、どんな思いで教育実習生としての3週間を過ごしているのかインタビューした。

6人でハイチーズ！お題は「在学時の部活」(枠内：名前・高校時の部活)

田中那佳先生〈現代文〉 日本女子大学

田中先生が国語を好きになったきっかけは、中学校の国語の先生が言った「文字の向こうには人がいる」という言葉だという。国語のおもしろさを知った先生は大学の日本文学科に在学中、近代文学に興味を持ち現代文の教員を志した。

錦城在学時は、吹奏楽部に所属しホルンを演奏していた田中先生。最後の定期演奏会を成功させたことが思い出に残っていると振り返る。

授業を行った感想を「50分の授業は緊張しました。時間配分を読み違えてしまい途中で終わってしまうこともありました」と残念そうに話す。

「表面的な知識だけでなく、国語の奥深いところにある面白さをもっと伝えられる『奥行きのある教師』になりたいです」と理想の教師像を熱く語った。

加藤大樹先生〈古文〉 武蔵野大学

「趣味は小学生の時からずっと続けているテニス。実はYouTubeで動画を見ることも好き」と加藤先生。よく妹に勉強を教えていたことから教師を志したという。しかし、実際に生徒に教えるのは思うようにいかないことも多く、難しかったと授業を振り返る。

「今はどうしても真面目に授業を進めてしまいがちですが、今後は楽しい授業を作りたいです」と目標を語った。

最後に錦城生に向けて「進路等の選択は一度立ち止まって考えることも必要。広い視野を持って自分の将来を考えてください」とメッセージをくれた。

芝田智英先生〈数学〉 学習院大学

生徒に数学の面白さや楽しさを伝えたいと思ったことがきっかけで教師を目指したと芝田先生。その思いは錦城に入ってからますます強くなり、高1の終わりには教員免許の取れる大学を探していたという。実際に数学を教える立場となって、初回の授業はとても緊張したと話すが、回を重ねるごとに板書に余裕が生まれてきたそうだ。「生徒が授業についていけているかどうか様子を見ながら進めることができました」と笑顔で語る。

錦城在学時の担任だった小野寺先生に『ちびっ子ギャング』の愛称で呼ばれていたという。最後に錦城生に向けて「高校で出会った友人とは大学4年生になった今でも連絡を取り続けています。ぜひ人との出会いを大切にしてください」と語った。

小林泰子先生〈倫理〉 中央大学

「趣味は旅行とセキセイインコの世話」と話す小林先生。中学時代、熱心な授業をしてくれた生徒思いの理科の先生に憧れたからだという。小林先生が社会科を選んだのは、障がいを持っている人との共生社会を目指し、色々な人に優しくできる生徒を育てたいという思いからだそうだ。実際に授業をしてみて「時間配分が難しい。最初の授業で10分余ってしまい、時間を潰すのが大変でした」と苦笑。社会科は言葉のニュアンスで捉え方が変わってしまうため、正しく生徒に伝わっているか確認をとりながら進めているという。様々な生徒一人ひとりを思いやれる先生になりたいと目標の教師像を語った。錦城生へは「勉強と部活の両立を頑張って欲しいです」とメッセージを送ってくれた。

西松和輝先生〈政経〉 立教大学

高校時代に体操部に所属していた西松先生。初めて生徒の前で演技した文化祭での発表が思い出に残っているという。食堂を頻繁に利用し、今でも土曜日に体操部のOBで昼食をとることがあるそうだ。特にうどんは今も昔も変わらずおいしいという。先日、学食のおばさんが声を掛けてくれたと話し、「アットホームな感じが嬉しかった」と笑顔。

現在文学部に通っている西松先生は、社会科の魅力を他教科とのつながりがあるところ。特に政経は、社会の仕組みを学べる大事な科目だと教えてくれた。

最後に「高校3年間は本当に貴重なもの。後悔しない、有意義で楽しい学校生活を送ってほしい」と錦城生にエールを送った。

授業の準備もバッチリです

筒井航平先生〈体育〉 日本体育大学

中学校の先生が自身のスポーツする姿で生徒を魅了する「魅せる体育」をしてくれたことから体育教師を目指した筒井先生。自らも「魅せる体育」で、興味の無い人も楽しめる授業を目指していると力強く語る。錦城時代は男子バレー部で部長を務めていた。部活の顧問であった大﨑昭先生には大会での挨拶など、人間として重要なことを教えてもらったそうだ。

指導者として尊敬できる先生がたくさんいるからこそ錦城高校に実習に来たのだという。「自分が何に興味があるのか、何になりたいのか、好きなことから広げて自分についてもっと考えて欲しい」と進路へのアドバイスをくれた。

吹奏楽部定期演奏会	室内楽部定期演奏会
6月17日(日)	6月23日(土)
ルネ小平大ホール	ルネ小平中ホール
開場13：30	開場18：00
開演14：00	開演18：30

私たちの予算どう使う？

真剣に話を聞く生徒たち

予算会議

5月7日（月）、視聴覚室Aにて予算会議が開かれた。はじめに各団体の前年度予算の決算の審議が行われ、通過。その後、生徒総会に向けて各団体の今年度の予算についての話し合いが、監査委員会を中心に行われた。大会以外の部活の予算増加に対する申し立てでは質問が投げかけられる場面が見られ、変更も交えながら予算案が組まれた。

生徒総会

5月16日(水)、6時限目に生徒総会が行われた。始めに生徒会長の村本夏望さん（3L）から学校生活のルールについて話があった。携帯電話持ち込み認可から1年が経過した今、携帯電話使用ルールを守れない人が増えている。

「持ち込みは当時の生徒会が努力を重ね実現したことで、先生と生徒の信頼関係の上で成り立っている。生徒全員の協力が必要だ」と呼びかけた。その後生徒総会議長の承認があり、各部の予算増加についての説明があった。決算報告の承認と予算決議が行われ、生徒総会は終了した。（巴・槿）

51回生服部正和さん 錦城で上映会

<MERCURY あらすじ> 映画は主人公マーキュリーの父親が殺されるところから始まる。すでに母親も亡くしている幼いマーキュリーは途方に暮れるも、父親の仇をとることを決意。生前父親が残した謎のバッジを頼りに、陰の組織クロムウェルの行方を追う。衝撃の事実がラストに待っている、目が離せないスリリングなスパイ映画だ。

錦城高校映画研究部出身の51回生、服部正和さんによる映画「MERCURY」が5月12日(土)に錦城高校多目的ホールにて上映された。服部さんは高校時代から映画研究部として数々の映画を制作しており、現在は立教大学現代心理学部映像身体学科に所属している。

上映後のトークショーでは撮影の裏話が披露された。懐中電灯2つでライトを用いたシーンなど「あるものだけで作る」という服部さんのモットーに映画研究部の顧問、北川先生も感心。一番大変だったことは撮影中に台風が直撃したことだという。しかしその台風によって、車が雨の中を走るシーンに躍動感が生まれ「自然が味方をしてくれました」と服部さんは話す。また劇中では校舎の一部が撮影の舞台になっている。エレベーターホールでのアクションシーンや旧校舎での銃撃戦は迫力があり、非日常的な映画の世界に親近感を沸かせた。この映画を通して主人公マーキュリーの人生を追体験し、従来のスパイ映画とは違うリアルな世界を体験してほしいと熱く語る服部さん。これからは「サスペンス本来の意味に言及した映画や、スケールの大きなアドベンチャー映画を作ってみたい。将来は大きなスクリーンでの上映にこだわり、観客をハラハラさせ続けたい」と意気込んだ。（李・槿）

「非日常を体感してほしい」と語る服部正和さん

上映場所に貼られたポスター

むらさき草

犬猫を飼いたいと思った時、どこで入手するだろうか。ペットショップ？それとも「ペットのおうち」？現代の日本はペットがまさに人に寄り添って、人生のパートナーとしての位置づけを確立していると言っても過言ではない時代だ。そんな中、日本はペット後進国と呼ばれているのをご存じだろうか▼実は日本で当たり前のペットショップ体制は、ペット先進国から見れば異常なもの。殺処分が行われないペット先進国のドイツでは、ペットの陳列販売は禁止されている。そのためペットを飼いたい人はペットショップ、ブリーダーもしくは「ティアハイム」という無期限で動物を保護し里親募集をしている施設に予約をする。日本のような販売の仕方はお金目的の過剰な繁殖に繋がるということを危険視しているのだ。譲り受ける際にも経済状況などを細かくチェックされ、厳しい規定も存在する▼その反面、日本のペット業界は大量生産大量消費を続けているという現状だ。ペットショップは大きくなり売れ残ったペットは処分し、新たに生まれたペットを迎えるという体制を繰り返している。売れ残ったペットはどこにいくのか▼行先の1つとして「引き取り屋」と呼ばれる悪質な業者の存在がある。動物愛護法改定後、売れ残りを保健所で処分できなくなったためペットを有料で引き取る業者の需要が増加。引き取り屋自体は違法ではないが、ペットが虐待同然の扱いを受けているケースは少なくない▼「いのち」が「モノ」として扱われているペット業界。犬や猫が、このような意識で取り引きされ、販売されている現実に疑問を持ってほしい。殺処分を待つペットが日本にはたくさんいる。そんなペットたちを探すことが出来るサイトが「ペットのおうち」。犬猫に限らず爬虫類、小動物など多種の里親募集、保健所にいるペットが見ることができる。ペットショップに行く前に「里親になる」という方法を考えてみてはどうだろうか。（泰）

大会報告

フットサル部
▽6月2日(土)
第5回全日本U―18フットサル選手権大会
東京都大会
男子ベスト8

陸上部
▽6月2日(土)、3日(日)
支部学年別大会
女子1年100M YH
3位 井草守琳(1J)
女子2年800M
8位 田中珠乃(2D)
女子3年走り幅跳び
3位 羽生里桜(3G)
4位 根本千寛(3G)
女子共通100M H
4位 喜頭蓮(3L)

ソフトボール部
▽6月3日(日)
平成30年度東京総体兼第70回インターハイ予選
女子敗退

弓道部
▽6月9日(土)
全国総体都予選
決勝進出 繁友杏子(3E)
内田千香子(3L)

大会報告お願いします！
大会に出場した際は、大会成績を職員室前に設置してある「大会報告」ボックス(赤色)に入れてください。メモ用紙で構わないので、各自大会名・日付・出場者名を書いて出してください。

生徒会動静 5.15～6.12

6月5日 図書委員会
6月8日 錦城祭実行委員
6月12日 錦城祭実行委員
6月13日 代議委員会

シルク・ドゥ・ソレイユとは

１９８４年にカナダで設立後、６大陸４５０都市以上を巡演し、世界中で１億８千万以上の人々を魅了してきた。今や約４千名のアーティストとスタッフを抱える世界的エンターテインメント集団へと成長。日本ではこれまでに、『コルテオ』、『クーザ』、『オーヴォ』、『トーテム』など13作品を上演し、１４００万人以上を動員している。

錦城 卒業生

「夢を叶えるのに年齢なんて関係ない」

DAIHATSU KURIOS CABINET OF CURIOSITIES キュリオス CIRQUE DU SOLEIL

東京公演 7月8日まで開催中！

シルク・ドゥ・ソレイユ設立 30 周年記念作品である『キュリオス』。実はその主要キャラクター・クララとして、本校 35 回生の池田一葉さんが出演している。今回、池田さんへの単独インタビューを行った。

（編集部共同取材）

シルク・ドゥ・ソレイユ出演の夢叶えた卒業生

――どのように錦城生時代を過ごしたのですか。

35回生は共学になって最初の代だったので、先輩たちはみんな男子。校舎はわかれていたけど、急激に校風が変化しようとしていてとても不思議な感じでした。校則が厳しかったのが、印象に残っています。

ダンスを始めたのが高校１年生の終わりごろでした。「一人では行きづらい」と友人に誘われ、何気なくダンススクールに通い始めたんです。錦城では女子バレー部に所属していたので、ダンスは本当に未経験でした。

高校生のときは自分がプロのダンサーになるなんて思っていなかったし、受験期もしばらくダンスは休んでいました。

――プロまでの経緯は？

大学生になってから、やっぱり職業としてダンスをやりたいと気づいて。人間科学部という学部柄、周りにはオリンピックを狙っているようなアスリートの同級生がたくさんいたので、メンタルと考え方の両面でたくさんの良い影響を受けることができたのも大きかったですね。日本にいる間は個人で先生を見つけ、ダンススクールに通っていたのですが、本格的に練習ができるアメリカのロサンゼルスに行ってみたいなと思って。

高１でダンスを始め、シルク・ドゥ・ソレイユ入団を果たした池田さん

池田一葉さんって？

（いけだ　かずは）

本校３５回生。16歳でダンスを始め、早稲田大学在学中の 2003 年にアメリカのロサンゼルスに渡る。その後プロダンサーとして活動し、日本では、宮本亜門演出のミュージカル『ウィズ』、『Tee! Tee! Tee!』にも出演した。シルク・ドゥ・ソレイユへ入団することが長い間の目標で、今回の『キュリオス』のオーディションは８回目の挑戦で念願を達成した。

「色々なことに挑戦してほしい」

――シルク・ドゥ・ソレイユについて教えてください。

パフォーマンスをするアーティストはもちろん、演出・美術など全ての部門においてその道のプロが集まっています。それぞれが一切の妥協なしに仕事に取り組んでいて、本当に素晴らしい職場だと思います。様々なバックグラウンドを持つ人々がいる職場で働くうえで重要なのは、先入観を持たずにともに協力していくことですね。

――クララを演じるにあたって大切にしていることは？

クララというキャラクターは幸いとても自分に合っているので、楽しみながら演じることができています。

今はただ目の前のことをひたすら取り組んでいくだけですね。残りの公演の中で、もっとクララという役を自分のものにしていきたいです。今はこうして日本で公演ができているのは本当に感慨深いものがありますね。

主人公のシーカー(左)と池田さん演じるクララ(右)

――今、錦城生に伝えたいことはありますか。

私の場合は、本当にやりたいと思うことを決めたのが周りの人に比べてとても遅かったけど、36歳でやっと「シルクの一員になる」という夢が叶った。正直日本でよく言われる「何歳までにこうなっていなければ幸せになれない」概念はあまり好きではありませんでした。

錦城にはちゃんとした課程があって、多くを望まなければ、すごく平和に人生を過ごせるところだと思います。でも、そうじゃなくて。あえて色々なことに、本当に何でも挑戦してほしい。たくさん失敗したっていいんです。夢を叶えるのに、年齢なんて関係ないと私は思います。

錦城生時代、とある体育の先生の授業が大好きだった

「11時 11分」の不思議な物語

シルク・ドゥ・ソレイユ設立30周年記念公演である『キュリオス』。２０１４年の開幕以来２５０万人以上を動員し、バンクーバーなどでこれまで人気を博してきた。舞台は産業革命が始まった19世紀。

欧米では偶然が重なり合う幸福な時間とされる「11時11分」。一幕が催される『透明サーカス』。６段、７段と重ねられていく椅子に手に汗握る『バランシング・オン・チェア』など、目に新しい演目が盛りだくさん。

シーカーが大冒険を終え現実世界に戻ると、時計の針はたった今11時12分を指すばかり。奇跡のような物語が始まる。骨董品たちが目の前で命を宿し、風変りなキャラクターなどで先生を見つけ、大学卒業後は、プロのダンサーとしてロサンゼルスで活動してきました。

科学と芸術が融合した骨董品のような衣装・セットも魅力の一つ

――迷いはありましたか

本当に迷いしかなかったです。むしろそればっかり（笑）。心が折れそうになったことも何度もありましたよ。でも、自分がやりたいと思うことができるならと思い、プロになることをずっと目指してきました。

親は常に大反対（笑）。でも、ダンサーになってからは応援してくれています。

深海生物に扮した演者が超人的な柔軟性を駆使する『コントーション』や、リングマスターが演出する「目に見えない」アーティストたちによる愉快なパフォーマンスなど、ダンサーたちが主人公の想像力を刺激していく。

“世界最高峰”支えるシルク広報を直撃

アーティストや小道具・衣装などの裏方を含め総勢１２０名ほどで各地での公演をこなすシルク・ドゥ・ソレイユ（以下シルク）。料理や総務に至るまで、各部門のプロが集まっている。

広報を担当しているジェフ・ロヴァリさんは普段、出演者のマネジメントをする傍ら、シルクのことを発信・宣伝している。同じシルクの一員としての池田さんについて「彼女ほど努力している人を見たことが無い」と言い切るジェフさん。池田さんは、誰よりも早く稽古場に来て、誰よりも遅くまで練習して、公演後にはビデオで自分の動きを確認して常に改善を重ねようと努めているという。「でもそれでいて常に笑顔を絶やさずに明るく、そうしたことをこなしているんだ」とジェフさんは誇らしげだ。

「この仕事を誇りに感じています」とジェフさん

『キュリオス』の魅力は「幸せなショー」であるところ。お客さんが幸せに約2時間半を過ごし笑顔で帰るとき、このお仕事をやっていて楽しいと思うそうだ。「自分が好きだと思って準備したものを、観客の方々が喜んでくれると本当に嬉しい」とジェフさんは笑顔で語った。

『キュリオス』 東京公演

～アクセス～

・ゆりかもめ
「台場」駅徒歩５分

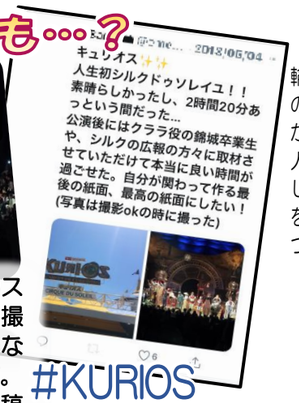
りんかい線
「東京テレポート」駅徒歩７分

お台場ビッグトップにて

～料金（A席）～

平日・大人 6,500 円
土日祝・大人 7,500 円

インスタ映えもできるかも…？

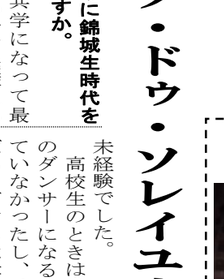


ショーの終わりでは、サーカスには珍しく、観客に嬉しい自由撮影タイムが設けられ、夢のような「１分間」を記録に残せます。Twitter やインスタなどに投稿してみては！？

#KURIOS でツイートしちゃおう！

池田さん演じるクララとは？

『キュリオス』主要キャラクターのクララは、輪っかのスカートが特徴的な半分電波、半分女性の不思議な役。本作の舞台の１９世紀は産業革命が起こり、電気通信が整い始めた時代。クララは人々が電気通信へ抱いていた強い憧れの象徴としてシーカーの想像の世界に現れ、人間の気持ちを理解したいという好奇心を持つ。公演が進むにつれ人間らしくなっていくクララにも注目だ。



取材中、許可をいただいて実際に衣装に触らせてもらいました。意外と軽い！

池田さんはこれを自由自在に駆使して、機械的ながらもどこか人間らしい動きを表現します

編集委員が厳選！ここが見どころ！

↑アクロネット

広大な海の上で、深海の生物たちが跳び上がり、跳ね上がり、回転します。不可思議な水の世界で展開される、トランポリンの技を組み合わせたストリートスタイルの演目は、「水中のきらびやかな祭典」の名にふさわしい迫力！

↓ローラ・ボーラ

活躍するのは恐れ知らずのパイロット。小さなプロペラ機で優雅に着陸すると、天幕から吊り下げられた空中ブラに乗り、更に筒や板を積み重ねた不安定な仕掛けに乗ります。手に汗握ることは必須！

編集後記

宙を駆ける自転車。揺れ動く巨大なブランコの上で、超絶技巧のバランス芸を披露するパイロット。一見「不可能」と思われることが「可能」になっていくのが『キュリオス』の醍醐味。そんな世界最高峰の舞台で活躍する先輩がいることを素直に誇りに感じた▼池田さんは繰り返し「自分が本当にやりたいと思ったことを、全力でやってきた」と語っていた。池田さんは、不可能と思えることを可能にした一例といえるのだろう▼今回、編集部の取材に協力していただいたフジテレビ広報の方も「高校生は一番楽しい時期だし、一番危うい時期。自分が大きなリスクを抱えていると自覚したうえで、最大限楽しんでほしい」と話してくれた▼本当に自分はいま、全力を尽くせているだろうか。そんな自問自答も少なくない今日この頃、高校から始めたことを追い続け、夢を叶えた先輩がいることに勇気をもらえた。不可能なことなんてない。せっかくの高校時代、迷っていた一歩を踏み出して、未来に向けて動き出していきたい▼そうは言われても、何をすればいいか分からないよというそこの錦城生へ。まずは『キュリオス』で不可能が可能になる瞬間を目撃しに行ってみよう。

Photos: Martin Girard,Pierre Manning/shootstudio.ca © 2014 Cirque du Soleil